

## ■ 紋別港湾事務所技術講習会の活動について

網走開発建設部 紋別港湾事務所

### 1. はじめに

紋別港湾事務所では、官民技術者、港湾管理者の技術力向上と管内一級土木施工管理技士のCPDSユニット取得を支援するために、平成28年度より技術講習会の計画的開催に取り組んでいます。平成28年度は計4回の技術講習会開催を予定しており、内容としては、第1回は「港と技術開発について」、第2回は「工事安全対策」、第3回は「寒冷沿岸域チームの取組と土木遺産修復・親水防波堤」、第4回は「港湾施設の維持管理技術セミナー」という技術テーマを設定して、

年度当初に開催計画と取得ユニットを公表する形で行っています。現時点での開催状況についてご紹介します。

### 2. 開催状況について

第1回については、北海道開発局港湾建設課の上田裕章港湾保安保全推進官を講師として招き「北海道の「みなど」と「技術開発」というテーマで、流水や長周期波、津波・防災、衛生管理などの課題に対する技術開発の内容が紹介されました。特に、瀬棚港で実施

中の「セラーブロック式工法」については限られた予算で効果的に整備していく技術としての解説が地元新聞の1面に掲載され、北海道開発局港湾部門の技術開発としてしっかり広報される結果となりました。(写真-1)。紋別市でこのような技術講習会の開催は初めてということもあり、オホーツク流水科学センターは直轄、民間技術者、港湾管理者など網走管内を中心に84名の技術者が参加し熱心に聴講と質疑応答が行われました(写真-2)。講習会冒頭では、渥美所長が技術講習会開催の目的と本年度の開催計画を説明し、地元新聞第1面に講習会の模様が大きく掲載され、地域で一級土木施工管理技士のCPDSを取得することの大変さとこれに取り組む直轄事務所の取組が丁寧に紹介され、事務所としてもモチベーションが喚起される結果となりました。

第2回の「工事安全対策」技術講習会は8月23日開催を予定していましたが、北見・網走管内で発生した大雨災害のため中止を余儀なくされました。実質第2回目となる「寒冷沿岸域チームの取組と土木遺産修復・親水防波堤」に関する技術講習会は、10月11日に網走管内を中心に88名の参加により開催されました。今回は4人の講師を迎えており、まず国立研究開発法人土木研究所の寒地土木研究所寒冷沿岸域チームから、中嶋雄一上席研究員から「土木研究所の新たな中長期計画と寒冷沿岸域チームの取り組み」、本間大輔研究員から「オホーツク海沿岸の海岸道路盛土の被災発生条件とその対策」として2つの講演が行われました。海氷と構造物との干渉などオホーツク海域になじみの深い技術課題であることから聴講者からの熱心な質疑応答もありました。続いて、(株)日本データサービスの関口信一郎顧問から「近代土木遺産の修復、函館漁港船入潤防波堤の修復について」、(株)西村組中村弘之札幌支店長から「紋別港第3防波堤の計画と施工について」として講演が行われました(写真-3)。特に、北海道開発局勤務時代に紋別港親水防波堤の建設に携われた中村講師の講演では、当時の計画や設計に関わる考え方や施工に当たっての工夫点が簡潔に説明され、講師自ら紋別港親水防波堤についてさらなる利活用に向けた期待も示されて、地元行政関係者も熱心に聴講していました(写真-2)。

第3回は、北海道大学大学院工学研究院の横田弘教授他3名の講師を迎えて、港湾・海岸構造物についての点検診断、維持管理に関する技術講習会を12月5日開催しました。直轄技術者や港湾管理者の技術力向上に加え、地域の建設業を中心とした地域活性化と技

術者交流にも答えるべく技術講習会開催に取り組んでいきたいと考えています。



写真-1 上田講師の技術講演(第1回)



写真-2 第1回の開催状況



写真-3 中村講師の技術講演(第2回)